

# Exclusive All about Shinagawashuku! 地元厳選これで分かる品川宿のすべて!

## 1千年の歴史をもつまち、品川宿。

このまちは古く平安時代頃から人々が住み始め、鎌倉時代にはすでに湊町として発展し、武蔵の唯一の物流の拠点として栄えた古いまちです。

1601年に徳川家康が「宿駅伝馬制」を定め東海道が日本を代表する街道になると、その第一の駅=宿として、人や物、文化、情報がここ品川宿を中心に行き交うようになり、益々発展していきました。明治維新以降は、日本が近代化に向けて突き進む中、工業の中心都市へと変貌し、近代日本の経済的発展を支え続けました。しかし

中世以来1千にもわたって発展し続ける一方で、まちとしての品川宿は余り変わることはありませんでした。21世紀になった今も、相変わらずちょっと古くさくて、人のぬくもりがあり、同じ日本人から見ても懐かしさを覚える、そんなまちであり続いているのです。

## 江戸庶民の大レジャースポット。

「江戸」の入口に位置する品川宿は、東西の文化が交流する文化都市として発展しました。また自然環境にも恵まれ、西は御殿山から南へ丘陵地帯が連なり、春は桜、秋は紅葉の名所として知られ、関東一円から行楽の人々が押し寄せました。また東の品川宿は魚介類の宝庫で、釣りや潮干狩り、船遊びの人々でにぎわい、町場には、それらの新鮮な魚介類をふんだんに使った贅沢な料理を出す店や旅籠が軒を連ねていました。つまりここ品川宿は、海、山の行楽があり、町場では

最先端の情報が行き交い、流行の最先端を知ることができます。まさに、江戸庶民には最高のレジャースポットとして人気を集めています。



## 祭り 祭りを中心に1年が回るまち。

品川宿では年間を通じて多くの祭りが行われていますが、中でも最も重要なのが、6月初旬に行われる品川神社の「北の天王祭」と荏原神社の「南の天王祭」です。どちらも伝統的な祭りで、大きな神体・町内神輿がまち中を練り歩きます。

品川宿の人々はこの何百年も続く祭りを心から愛し、そして何よりの誇りとしており、1年の暮らしはこの祭りを中心に動いていますといつても過言ではありません。品川宿の魅力を解く第一の鍵は、この祭りにこそあるのです。



## 品川宿が浮世絵に描かれたわけ。

浮世絵は、美人、役者、風景などを題材にした江戸時代の風俗画ですが、今でいう、情報紙のような役割も持っていました。つまり世間では今どんなことが流行っているのか、役者や女性ではだれが人気があるのか、行楽に行くには今どこが一番か、そのような最先端の情報を当時の人は浮世絵から得ていたのです。ここ品川宿もお花見や海辺の遊び、歓楽街の美人など、絵になる題材に事欠きませんでしたから、浮世絵師はござってこまちを描いたのです。



## 未知の空間に迷い込む楽しさ。

東海道の道筋を歩いていると、枝別れた細い道があちこちにあらわれます。ちょっと好奇心をくすぐるこの迷路のような路地を歩くと、地元の人たちが丹精した植木が並んでいたり、井戸があったり、洗濯物が干してあつたり、まちの暮らしと文化が直に感じられます。そんな路地で地元の人出会ったら、ちょっと会釣をお願いします。



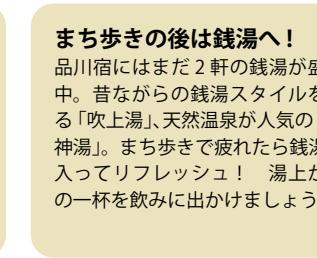
## 昔の道幅のまま残る東海道。

江戸時代には、政治の中心地である江戸から地方へと伸びる主要幹線道路「街道」が整備されました。なかでも江戸と京都を結ぶ「東海道」は最も重要な道路でした。そして江戸時代は歩く、馬、かごで旅をしましたので、お江戸日本橋から大阪までの道筋に、57の駅=宿場が作られました。ここ品川宿は、日本橋から約8キロにある最初の宿場町。そして今もまちの真ん中を通る東海道は、江戸の昔からの道幅をそのままに、北品川のハツ山口から鈴ヶ森口まで約3.8kmが残る、貴重な歴史遺産なのです。



## 誰もが感じる、懐かしいまち。

「下町」。この言葉を聞くと、お互いの人間関係が濃く、世話焼きのおばさんのがいる活気あふれる庶民の生活シーンを思い浮かべます。ここ品川宿も今や東京には数少なくなったそんなまちのひとつで、多くの人がこの「懐かしさ」を求めてこのまちを訪れます。散策の折りには、ぜひまちの人にも声をかけてみてください。地元の人はみんな自分のまちが大好き。きっと面白い話が聞けると思います。



## 心がほぐれる寺社の緑。

品川宿の周辺には実に寺院が34、主な神社が16もあります。1千年の歴史の中で、日本各地から人々が集まってきた結果、このように多くの信仰の場が生まれました。緑が多いお寺や神社は、宗教の違いを超えて、どなたにとっても心いやされる、とてもよい空間になっています。

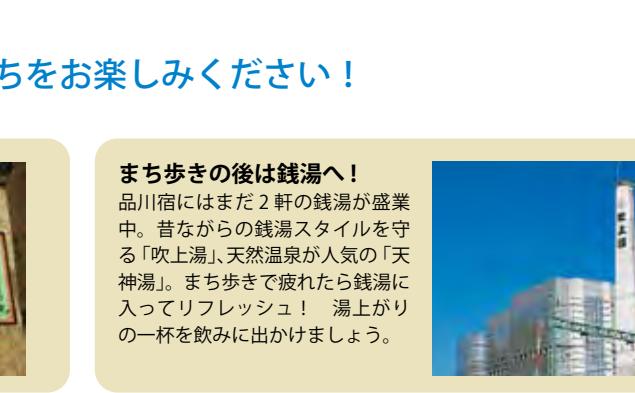


## 誰もが懐かしい、ちょっとレトロなまちをお楽しみください！



## ようこそ品川宿へ

誰もが懐かしい、ちょっとレトロなまちをお楽しみください！



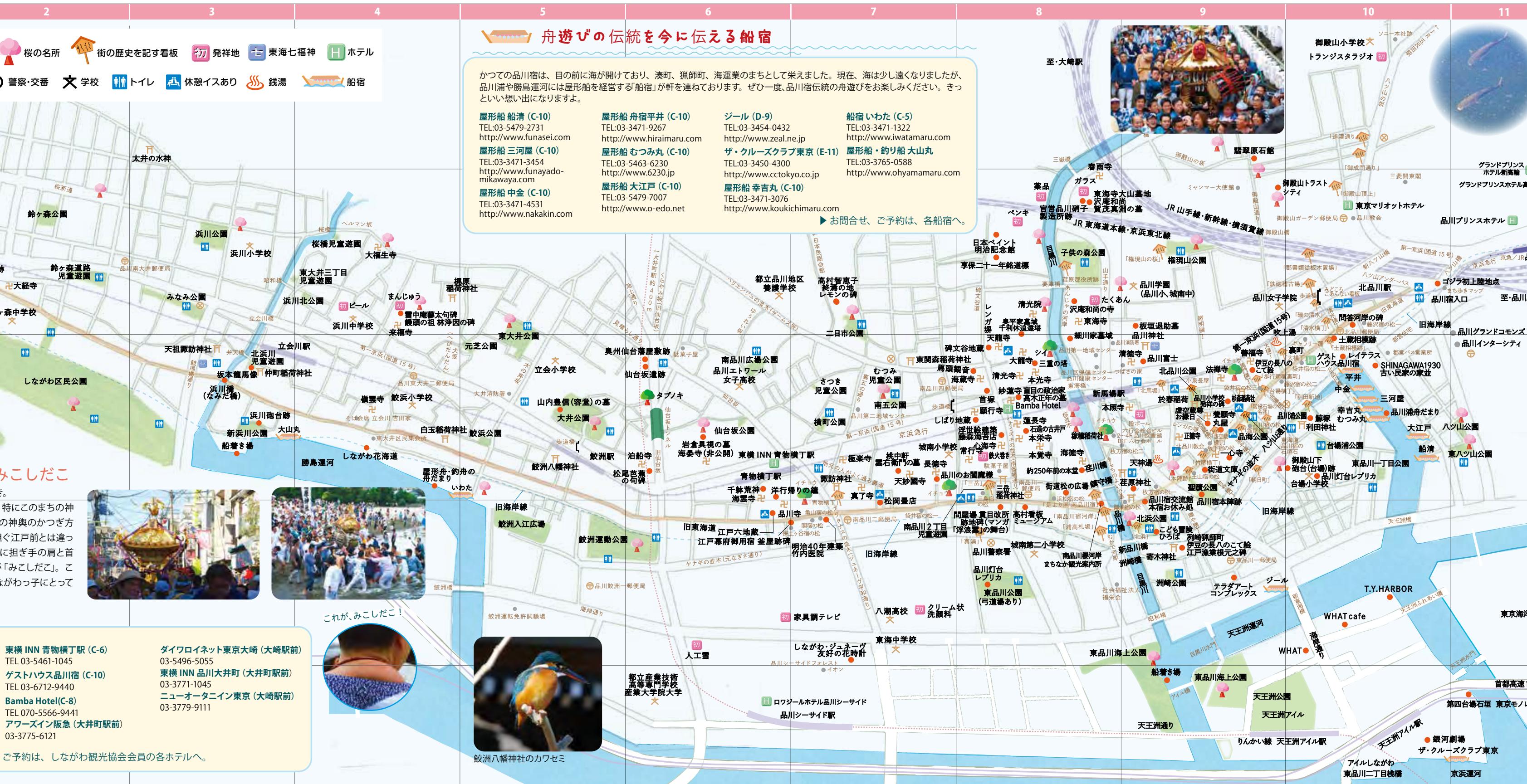
## Ray Terrace レイテラス

品川の歴史を繋いだ建物をリノベーションし、品川の新しい拠点として、様々な場所から訪れる人たち交流を生み、発信していく複合施設です。ソーシャルカフェ「PORTO」、日本酒の古酒・熟成酒専門店「いにしえ酒店」、カフェ＆コワーキングスペース「ママプラスカワフ」等の店舗が営業しています。C-10 〒140-0001 品川区北品川1丁目22-7 石田北品川ビル2・3 https://ray-terrace.co.jp/



## SHINAGAWA1930

品川の歴史を繋いだ建物をリノベーションし、品川の新しい拠点として、様々な場所から訪れる人たち交流を生み、発信していく複合施設です。ソーシャルカフェ「PORTO」、日本酒の古酒・熟成酒専門店「いにしえ酒店」、C-10 〒140-0001 品川区北品川1丁目22-7 https://shinagawa1930.jp/



# 地元厳選

# 東海道品川宿 なるほどマップ ようこそ、品川宿へ！

ここ品川宿は、東京の最も先進的なエリアにあります。ながら、昔から変わらない厚い人情と、下町の情緒が色濃く残るまちです。

どうぞ心をときほぐして、ちょっとレトロなまち品川宿をごゆるりと、お楽しみください。

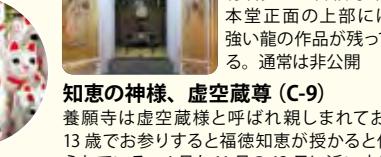
## しながわ観光協会



# 見て 食べて 飲んで おもてなし

## 東海道品川宿 見所 スポット

### 千年の歴史



## 東海道品川宿

### 地元厳選

### 見所 スポット



## 天王洲エリア

### 天王洲アイル (E-1)

オフィスビル、銀河劇場、ショッピング街、レストラン、ホテルなどが集結するモール街。ウオーターフロントのおしゃれな再開発の先駆け。

### 水辺のボードウォーク (E-10)

おしゃれな天王洲アイルをつなぐめぐる木のデッキは、眺めがよく遊歩にぴったり。この辺の岸壁には、ベリー来襲で、お台場の石垣がまだ残っている。

### 幕末築造の台場の名残 (E-11)

東京モルタルが走る行き交うすぐ下に、幕末築造された第四台場の石垣が、150年の時を経ても残っている。

### 北品川 / 東品川エリア

### コジラの初上陸地点 (B-10)

ハリウッドでもリメイクされた世界の大人気を誇る日本映画「コジラ」。その第一作目で、太平洋上で生まれたコジラが陸地上に第一次を切ったのが、八ツ山橋。「シン・コジラ」にも登場。

### 禅問答の記念碑・答問河岸 (B-10)

三代将軍・徳川家光(1604-1651)による有名な禅問答が、禅門を開いた場所。沢庵は家光の要請を受け自ら黒川のほとりに東海寺を開いた。

### 海辺のまちの名残 品川川 (C-10)

かつて品川宿の一帯は商業が盛んで、すしや天ぷらの店など江戸前の魚が揚げられ、海苔や産地としても有名だった。1962年以後、漁は行わないが、今も天ぷら店や、つり舟、屋形船を営む船宿が多い。

### 幕末の史跡 土蔵相模跡 (C-10)

1860年の御殿門外の裏では、土蔵と土蔵の間で、御殿門を守護した兵士たちが謀議を重ねた跡跡。

### 北品川の鎮守・品川神社 (C-9)

江戸幕府を開いた徳川家康(1542-1610)など、將軍家と、江戸幕府の元老として人気のあるエリ社、毎年6月初頭に行われる「北の祭」で、大きな神輿がまちを練り歩き、大変にぎやか。境内には、神輿を展示する宝物殿や、富士山信仰を示す宝物殿。自由民の運搬の父・板垣退助(1837-1910)の墓などがある。

### 昔の地形が今も残る台場跡 (C-10)

台場小学校は、ペリー艦隊を迎えたために幕末に築造された台場跡のひとつ。5重形の敷地は当時のままだ。品海橋を築いた石や、品川駅のレリーフが駅門の右手に残っている。

### 江戸の鰐舞・大鰐の「鰐」 (C-10)

11代将軍・徳川家斉(1773-1841)の時代、品川に長18mもの大鰐が放し込まれた。これは、江戸の三大珍獣のひとつ。追跡の品川浦に船をみるよことは珍しく大騒ぎとなり、将軍にも喜び入れた。その跡の骨を葬った鰐塚が利田神社に残っている。

### 高村智恵子の「レモンの森」 (B-7)

美術家・高村智恵子(1886-1938)が最後の日々を送ったセムズ坂病院があった場所。夫で彫刻家・詩人の高村光太郎(1883-1956)が悲しき人生を詠った詩集「智恵子抄」は多くの日本人に愛されている。

### 名工、伊豆長八の「こて絵」 (D-9)

建物の壁面で漆喰で仕上げる職人を左官工といふ。伊豆長八(1815-1889)は、木戸の左最部に描かれた名工の名で、そのすぐれた仕事は「東海道のフレンチ画」と呼ばれている。長八は品川宿でもいくつかの仕事を手がけているが、中でも茶神社本殿の外壁に日本画の1シーンを描いたユーマス作品は有名。また善福寺 (C-9) 本堂正面の上部には力強い刷毛の作品が残っている。通常は非公開。

### 知恵の神様、虚空蔵尊 (C-9)

養顛寺は虚空蔵菩薩と呼ばれ親しまれており、13歳でお参りする童心の知能が授かると伝えられている。4月11日の13日に近い土日に開かれれる参拝は、祭事でござる。

### 北品川の「お不動様、一心寺 (C-9)

木戸の「お不動様、一心寺」は、木戸本尊は延命と商売繁盛を授けてくれる不動明王。毎月28日が開かれれる。

### 高村看板ミュージアム (D-8)

昭和ネオン本社内に設置された博物館。江戸時代から昭和初期に制作された木製看板、約100点を展示。入場無料。

### 歴史を重ねた松岡監 (D-7)

疊居の仕事場兼住宅。低い二階建の構造は、昔、海に近く浜風が強かったため、それを防ぐ知恵だとか。

### 江戸六地蔵の品川寺 (D-6)

品川寺で最も古い寺。806-810年の開山。高さ4.8mの江戸六地蔵が街道の安全を見守る。江戸時代の品川寺が舞踏、浜町として、また問屋場として栄えた頃の寺の辺りの風俗がよく描かれている。

### 品川寺の古建築、海徳寺 (C-8)

本堂は平成19年に再建されたが、木造は1751年の創建時のものを使っている。

### 偉人・高木正と妙蓮寺 (C-8)

品川宿で最も古い寺。806-810年の開山。木戸本尊は、江戸時代に大名が宿泊するために建てられたもの。この寺は、天皇が天皇宮へ向かう際に休憩する「聖蹟」の名がついている。

### お休み凧 品川宿交流館 (D-9)

地元のまちづくり協議会が運営する品川宿の総合案内所。1階はお休み凧、ミニギヤリーラー、子供たちに大人気の絵本展示室。2階は品川宿を知る表示、4階は貸ホール、会議室もある。まち歩きは、ここからスタート!

### 日本のガラス工業発祥の地 (B-8)

日本で最初にガラスを製造した官営の品川硝子製造所があった場所。当時の造船所の建物は、現在は愛知県立山市の明治村に移築されている。

### 有名人が多く眠る大山墓地 (B-8)

東海寺大山墓地には高僧・沢庵(1573-1645)や、日本で最初に鉄製を設立した井上勝(1843-1910)、製鉄の先駆者・西村勝(1837-1907)、学者・賀茂真淵(1697-1769)、天文学者の祖・渋川春海(1639-1715)などの墓がある。

### 有名なまちの名残 品川川 (C-10)

かつて品川宿の一帯は商業が盛んで、すしや天ぷらの店など江戸前の魚が揚げられ、海苔や産地としても有名だった。1962年以後、漁は行わないが、今も天ぷら店や、つり舟、屋形船を営む船宿が多い。

### 幕末の史跡 土蔵相模跡 (C-10)

1860年の御殿門外の裏では、土蔵と土蔵の間で、御殿門を守護した兵士たちが謀議を重ねた跡跡。

### 北品川の鎮守・品川神社 (C-9)

江戸幕府を開いた徳川家康(1542-1610)など、將軍家と、江戸幕府の元老として人気のあるエリ社、毎年6月初頭に行われる「北の祭」で、大きな神輿がまちを練り歩き、大変にぎやか。境内には、神輿を展示する宝物殿や、富士山信仰を示す宝物殿。自由民の運搬の父・板垣退助(1837-1910)の墓などがある。

### 昔の地形が今も残る台場跡 (C-10)

台場小学校は、ペリー艦隊を迎えたために幕末に築造された台場跡のひとつ。5重形の敷地は当時のままだ。品海橋を築いた石や、品川駅のレリーフが駅門の右手に残っている。

### 江戸の鰐舞・大鰐の「鰐」 (C-10)

11代将軍・徳川家斉(1773-1841)の時代、品川に長18mもの大鰐が放し込まれた。これは、江戸の三大珍獣のひとつ。追跡の品川浦に船をみるよことは珍しく大騒ぎとなり、将軍にも喜び入れた。その跡の骨を葬った鰐塚が利田神社に残っている。

### 高村智恵子の「レモンの森」 (B-7)

美術家・高村智恵子(1886-1938)が最後の日々を送ったセムズ坂病院があった場所。夫で彫刻家・詩人の高村光太郎(1883-1956)が悲しき人生を詠った詩集「智恵子抄」は多くの日本人に愛されている。

### 名工、伊豆長八の「こて絵」 (D-9)

建物の壁面で漆喰で仕上げる職人を左官工といふ。伊豆長八(1815-1889)は、木戸の左最部に描かれた名工の名で、そのすぐれた仕事は「東海道のフレンチ画」と呼ばれている。長八は品川宿でもいくつかの仕事を手がけているが、中でも茶神社本殿の外壁に日本画の1シーンを描いたユーマス作品は有名。また善福寺 (C-9) 本堂正面の上部には力強い刷毛の作品が残っている。

### 高村看板ミュージアム (D-8)

昭和ネオン本社内に設置された博物館。江戸時代から昭和初期に制作された木製看板、約100点を展示。入場無料。

### 歴史を重ねた松岡監 (D-7)

疊居の仕事場兼住宅。低い二階建の構造は、昔、海に近く浜風が強かったため、それを防ぐ知恵だとか。

### 江戸六地蔵の品川寺 (D-6)

品川寺で最も古い寺。806-810年の開山。木戸本尊は、江戸時代に大名が宿泊するために建てられたもの。この寺は、天皇が天皇宮へ向かう際に休憩する「聖蹟」の名がついている。

### お休み凧 品川宿交流館 (D-9)

地元のまちづくり協議会が運営する品川宿の総合案内所。1階はお休み凧、ミニギヤリーラー、子供たちに大人気の絵本展示室。2階は品川宿を知る表示、4階は貸ホール、会議室もある。まち歩きは、ここからスタート!

### 日本のガラス工業発祥の地 (B-8)

日本で最初にガラスを製造した官営の品川硝子製造所があった場所。当時の造船所の建物は、現在は愛知県立山市の明治村に移築されている。

### 有名人が多く眠る大山墓地 (B-8)

東海寺大山墓地には高僧・沢庵(1573-1645)や、日本で最初に鉄製を設立した井上勝(1843-1910)、製鉄の先駆者・西村勝(1837-1907)、学者・賀茂真淵(1697-1769)、天文学者の祖・渋川春海(1639-1715)などの墓がある。

### 有名なまちの名残 品川川 (C-10)

かつて品川宿の一帯は商業が盛んで、すしや天ぷらの店など江戸前の魚が揚げられ、海苔や産地としても有名だった。1962年以後、漁は行わないが、今も天ぷら店や、つり舟、屋形船を営む船宿が多い。

### 幕末の史跡 土蔵相模跡 (C-10)

1860年の御殿門外の裏では、土蔵と土蔵の間で、御殿門を守護した兵士たちが謀議を重ねた跡跡。

### 北品川の鎮守・品川神社 (C-9)

江戸幕府を開いた徳川家康(1542-1610)など、將軍家と、江戸幕府の元老として人気のあるエリ社、毎年6月初頭に行われる「北の祭」で、大きな神輿がまちを練り歩き、大変にぎやか。境内には、神輿を展示する宝物殿や、富士山信仰を示す宝物殿。自由民の運搬の父・板垣退助(1837-1910)の墓などがある。

### 昔の地形が今も残る台場跡 (C-10)

台場小学校は、ペリー艦隊を迎えたために幕末に築造された台場跡のひとつ。5重形の敷地は当時のままだ。品海橋を築いた石や、品川駅のレリーフが駅門の右手に残っている。

### 江戸の鰐舞・大鰐の「鰐」 (C-10)

11代将軍・徳川家斉(1773-1841)の時代、品川に長18mもの大鰐が放し込まれた。これは、江戸の三大珍獣のひとつ。追跡の品川浦に船をみるよことは珍しく大騒ぎとなり、将軍にも喜び入れた。その跡の骨を葬った鰐塚が利田神社に残っている。

### 高村智恵子の「レモンの森」 (B-7)

美術家・高村智恵子(1886-1938)が最後の日々を送ったセムズ坂病院があった場所。夫で彫刻家・詩人の高村光太郎(1883-1956)が悲しき人生を詠った詩集「智恵子抄」は多くの日本人に愛されている。

### 名工、伊豆長八の「こて絵」 (D-9)

建物の壁面で漆喰で仕上げる職人を左官工といふ。伊豆長八(1815-1889)は、木戸の左最部に描かれた名工の名で、そのすぐれた仕事は「東海道のフレンチ画」と呼ばれている。長八は品川宿でもいくつかの仕事を手がけているが、中でも茶神社本殿の外壁に日本画の1シーンを描いたユーマス作品は有名。また善福寺 (C-9) 本堂正面の上部には力強い刷毛の作品が残っている。

### 高村看板ミュージアム (D-8)